

## 岩内駅略歴

出典：岩内町郷土館所蔵（岩内駅史 より）

明治 37 年 10 月 3 日	岩内線敷設認可となる
明治 43 年 5 月	岩内線の敷設に着手す（北海道鉄道管理局工事報告） 岩内線建設費 27 万 2445 円
明治 44 年 3 月	岩内線設置箇所を町中央に定めるよう岩内町長へ請願書提出 梁瀬眞精他 665 名連書
明治 44 年 10 月	岩内駅新設に着手。国鉄の主張により現位置に設立 札幌市地崎組社長地崎宇三郎氏請負（工費）
大正元年 11 月 1 日	岩内駅落成同日一般絵業を開始す。初代駅著毛内 同月 3 日岩内駅落成式典を挙げる。
大正 2 年 9 月	運送店関係一駅一店制度により、一印岩内運送店設立さる 三印（正）青塚 北都組（岩）(二)下田各店合同
大正 2 年 月	岩内駅現構内北側に町費いて船入間を完成荷役作業に使用す 構内浜線 1, 2, 3 番線敷設
大正 3 年 10 月 21 日	第 7 師団秋季演習により兵員、軍馬武器軍需品の輸送に特別協力
昭和 3 年 11 月	岩内駅並びに宿舍の飲料水用掘抜井戸完成
昭和 4 年 12 月	岩内駅本屋並に集札口改築完成
昭和 5 年	岩内駅現構内北側の船入間埋立工事完了
昭和 6 年 11 月	岩内駅北側埋め立て地に茅沼炭鉱泊村本山より岩内駅迄索道（鉄索） 新設され始めて鉄道輸送開始す(年間 12 万吨)
昭和 9 年 11 月	岩内駅貨物事務室新設。貨物上屋拡張、貨物通路の石畳舗装完成
昭和 10 年 10 月 4 日	秋期特別大演習（天皇陛下總督として迎行）の為岩内駅兵員、軍馬軍用品 輸送に特別協力す
昭和 11 年 2 月	岩内地方大雪害の為開駅最初の除雪車マークレン、ロータリ車出動
昭和 12 年	運送店関係北後志通運と改称し、小笠原、久保田、斉藤合同す
昭和 16 年 8 月 15 日	大東亜戦争勃発により岩内駅勤務体制極度に戦時色を呈す
昭和 19 年 2 月	岩内港運成立。従来の昭栄石炭会社の事業継承。戦時中に付駅職員も石炭積出 に勤労奉仕
昭和 20 年 6 月 2 日	岩内駅大東亜戦争中初の空襲警報と会場遥かに砲撃音を聞く。 役全員退避す。以降毎日 B 29 駅上空を航行現本屋両側に防空壕施設 同月駅職員入営応召等により職員不足により岩内高等女学校卒業生十余名 徴用す

昭和 20 年 8 月 15 日	岩内町空襲警報発令岩内沖に砲爆の音聞こえ、敵機グラマン 6 機により駅上空を旋回後構内油槽船を空爆大破す。全職員退避す 大東亜戦争終戦。岩内駅全員集合玉音を謹聴す
安政 3 年 4 月 1 2 日	茅沼炭鉱開山 最出は昭和 35 年 16 万 6000t
昭和 39 年 4 月 30 日	茅沼炭鉱閉山する。
昭和 21 年 1 月 31 日	2・1 ゼネストの為岩内地区労大会デモに岩内組合員参加す
昭和 22 年 10 月	茅沼炭鉱鉄道が前田村発足駅より岩内駅迄 6.3 キロ新設され索道は撤去さる (駅長 清水達)
昭和 24 年 5 月	岩内陸上輸送協会発足 会長 町長清水将夫 (駅長 清水達)
昭和 24 年 7 月 10 日	胃本国有鉄道行政機関職員定員法により岩内駅に於いて転勤 7 名退職 6 名
昭和 24 年 8 月 20 日	岩内駅荷物扱所並に集札口の新設 (駅長 富求富之助)
昭和 24 年 9 月 1 日	岩宇旅行会発足 会員 90 名 会長 山田清三郎 同月 3 日第 1 回旅行を北湯沢に実施 副会長 福井信一、北野伊三松
昭和 25 年 3 月 1 日	岩内陸上輸送協力会より駅放送用に拡声器の寄贈を受く、同日より駅名喚呼 その他の放送を開始す
昭和 29 年 8 月	鉄道貨物協会札幌支部岩内地区部会発足 会長石山栄作 (駅長高梨利孝)
昭和 29 年 9 月 26 日	台風 15 号による岩内町大火災により駅本屋其の他一切の駅関係の建物 宿舍、書類等全焼す
昭和 29 年 9 月 28 日	天幕にて仮駅舎を作成、移転営業を開始す。荷物保管庫、貨物事務室は別にパ イプハウスを使用
昭和 30 年 1 月 23 日	連動装置高架式に変更工事完成
昭和 30 年 2 月 1 日	宿舍 1 号 1 棟 8 戸落成 同年 3 日貨物扱所及び上屋落成
昭和 30 年 6 月 1 日	宿舍 2 号 1 棟 8 戸落成、同月 10 日駅共同浴場落成水道設備完成
昭和 30 年 6 月 30 日	岩内駅営業無事故更新第 1 回完成表彰を受く
昭和 30 年 9 月 28 日	新駅本屋基礎工事の為仮駅舎移動 その間 3 日間再度天幕内営業 (請負業者 札鉄工業)
昭和 30 年 12 月 27 日	新駅舎落成 (工費 700 満) 一般営業開始す。同日落成式を盛大に挙る
昭和 30 年 12 月 29 日	宿舍 3 号 4 戸落成
昭和 31 年 7 月 15 日	第一種踏切道 (14.627 ㌦) 駅移管となる
昭和 31 年 10 月	岩内駅初の労組職場集会を結構(723 列車と 724 列車の 1 往復間合) 駅長高梨利孝、岩内線委員長井上乙吉、札幌地本伊与部失効委員長指導
昭和 32 年 10 月 1 日	岩内駅ホーム、花壇、噴水池完成
昭和 34 年 8 月 12 日	岩内旅行会発足、公民館に於て発会式を挙る。駅長佐藤兵助 会長久保田光次郎、副会長北野伊三松、福井信一、事務局を岩内駅におく
昭和 34 年 10 月 4 日	岩内旅行会第 1 回旅行を久保内辨慶温泉に実施 同月 12 日岩宇旅行会閉会

昭和 36 年 3 月 1 日	岩内駅開駅以来初めて年間収入(35 年度) 2 億円を突破す
昭和 36 年 4 月 1 日	鉄鉱業株式会社雷電鉱山(所長沢井慶二) 営業開始 原鉱を岩内駅より輸送開始す。年間 15200 トン
昭和 36 年 6 月 10 日	駅本屋外廊増設す。(佐藤駅長)
昭和 36 年 6 月 29 日	国鉄総裁十河信二来駅、土社長、局長も随行、視察後 宇喜世旅館に一泊(佐藤駅長)
昭和 36 年 10 月 1 日	前田駅業務委託駅となり、当駅その管理駅となる(初代委託者岡崎俊夫)
昭和 37 年 1 月 30 日	岩内～札幌間準急 DC らいでん号の試乗会を施行す
昭和 37 年 2 月 1 日	岩内線 DC の運行開始す。準急 らいでん、ニセコ号を含め 旅客 11 往復、貨物 3 往復
昭和 37 年 2 月 15 日	村上光儀氏、第 9972 列車常務前田駅入れ替え作業中殉職す。(菊地駅長)
昭和 37 年 2 月 17 日	村上光儀氏相互願成寺に於いて駅葬を施行
昭和 37 年 2 月 23 日	茅沼炭鉱鉄道に於て、セキ号車 7 両客車 1 両牽引、岩内駅に向う途中 大浜第 3 踏切付近に於いて機関車、客車各 1 両脱線転覆 岩内線の列車運転に支障をきたす
昭和 37 年 3 月 1 日	岩内駅並に岩内線各駅胆振線管理長の管理下となる 管理長神木寿雄、副管理長秩父鶴一、辻口享一
昭和 37 年 3 月 1 日	岩内駅町胆振線副監理超兼務 E 職に昇格す
昭和 37 年 8 月 3 日	台風 9 号により、国富駅付近ホリカップ川氾濫し、国富駅構内列車運転 不能となり、岩内線不通となる。よく 4 日より 10 日迄函館本線不通となる (倶知安まで折り返し営業運転す) 同時に茅沼炭鉱鉄道橋梁流出運転不能と なる。
昭和 37 年 7 月 30 日	岩内駅ホーム上屋完成す
昭和 37 年 8 月	駅前広場に岩内町に於てグリーンベルト完成(請負空田組)
昭和 37 年 8 月 17 日	岩内町主催血による全道青年大会の鉄道輸送に協力す
昭和 37 年 8 月 18 日	茅沼炭鉱に於て炭鉱鉄道を廃止し発足より岩内駅までトラック輸送を開始す
昭和 37 年 8 月 18 日	茅沼炭鉱鉄道台風 9 号の水害により、発足駅留置の国鉄車輛セキ 9 両トム 6 両を札幌大東建設のトレーラーにて岩内駅まで道路輸送す
昭和 37 年 10 月 5 日	岩内線前田～岩内間(小沢起点 12.1 ㌾) リヤムナイ山崎カーブ付近に旅客駅 (駅員無配置) の新設承認となる(駅長菊池健一)
昭和 37 年 11 月 1 日	岩内駅開駅 50 年祭りを町産業会館に於て盛大に挙(駅長菊池健一)
昭和 38 年 5 月 10 日	岩内線岩内駅より 1.2K 付近の第 3 種踏切信号の自動化となる(駅長川村勇)
昭和 38 年 7 月 24 日	ニセコ積丹小樽海岸国定公園指定となる 岩内駅ホーム東側に国定公園にちなみ国定公園雷電庭を完成す(駅長川村勇)
昭和 38 年 8 月 26 日	岩内旅行発足以来初めて、大団体(226 名) 層雲峡に 1 泊 2 日旅行す
昭和 38 年 9 月 1 日	駅貨物石炭線 1 番線の土場補装完成す
昭和 38 年 10 月 1 日	岩内線岩内駅より 2.9K 付近に西前田駅営業開始す
昭和 38 年 12 月 29 日	岩内駅大浜踏切第 1 種を第 3 種踏切となる

昭和 39 年 4 月 1 日	岩内旅行会員、発足当時 182 名ところ 38 年度以来増員を図り、4 月 1 日現在 350 名の会員となり新たに旅行会名簿作成し配布す
昭和 39 年 4 月 30 日	茅沼炭鉱閉山す。開山以来 108 年に亘る茅沼炭鉱歴史に終止符をつける
昭和 39 年 6 月 25 日	西海岸鉄道（岩内～黒松内間）着工線に昇格決定。町民宿望の西海岸線の計画は 66 年前よりの願望であり尚昭和 12 年 5 月の後志西海岸鉄道期成同盟会結成より 28 年後初めて着工線に決定す。
昭和 39 年 7 月 19 日	岩内線着工線昇格を町をあげて祝す。鉄道関係として、支社より鎌倉貯砂薬、札局より施設部長ライチョウ、祝賀会に列席す。
昭和 40 年 2 月 1 日	日本通運岩内支店廃止され、日本通運小樽支店岩内営業所となる 初代営業所長 合田正悦、従業員 28 名（旧 25 名）
昭和 40 年 3 月 10 日	岩内地方観光図 岩内駅前完成す。
昭和 40 年 9 月 25 日	日鉄鉱山閉山す 昭和 35 年より岩内駅より貸出して居た日鉄雷電鉱山本日より閉山し、6 年の車扱出貨に終止符をつける。
昭和 40 年 10 月 1 日	駅小口扱廃止す。開駅以来荷主に親しまれてきた駅小口扱廃止となり日通代行輸送に変更す。
昭和 40 年 10 月 10 日	岩内駅構内旧茅沼線（3，4，5 番線撤収す）
昭和 40 年 10 月 22 日	駅本屋々に電気大時計を岩内ロータリークラブより寄贈を受け 本日産業会館に於て贈呈式を施行す（調整は屋内リモートコントロールで行う）
昭和 41 年 2 月 15 日	岩内駅小口扱い日通代行にともない、貨物定員 3 名車号 1 名のところ日勤 1、車号 1 に減員す
昭和 41 年 4 月 11 日	岩内旅行会結成以来の長途旅行 15 泊 17 日間の九州四国めぐりに 80 名の会員で旅行す
昭和 41 年 10 月 26 日	札鉄サービス向上運動に優秀な成績を認められ局より表彰を受ける。
昭和 41 年 12 月 1 日	駅前広場に旅客用水呑場を新設
昭和 42 年 2 月 1 日	管理長制度廃止となる。昭和 37 年 3 月 1 日おり施行の管理長制度本日をもって廃止となる。管理長五十嵐吉行
昭和 42 年 2 月 6 日	北海道庁商工部観光課主催の「観光客を親切に迎える運動」に於て道にて岩内駅、様似駅の二駅が表彰を受けローヤルホテルにて受賞を受けるため三上駅長出社す
昭和 42 年 6 月 11 日	北海道 22 駅に観光入場券発売につき岩内駅の雷電観光入場券が売出された。
昭和 43 年 2 月 10 日	待合室に観光用電光用看板を掲ぐ（酒井駅長）
昭和 43 年 8 月 1 日	雷電国定公園国鉄周遊指定地に認可さる（道にて恵山地区と 2 箇所）酒井駅長尚駅前広場鉄道用地となり営業用駐車料徴収制となる
昭和 43 年 9 月 15 日	第一次北海道赤字廃止 15 線区中、岩内線 4 位に道新掲載さる。本史 48 頁参照
昭和 43 年 11 月 15 日	構内投光器構内中央部に設置。従来の旧投光器（東西）撤去した
昭和 43 年 11 月 15 日	宿舎水道清掃工事完了（酒井駅長）

昭和 43 年 12 月 31 日	第 10 回営業無事故完成（酒井駅長）
昭和 44 年 3 月 27 日	第 1 回安全成績 1000 点到達（村上駅長）
昭和 44 年 9 月 11 日	第 8 回運転無事故 1000 点達成（村上駅長）
昭和 44 年 9 月 15 日	岩内町親睦名人野球（第 16 回）出場国鉄岩内駅（ひまわりチーム）優勝す。 メンバー 村上、千葉、亀山、南（忠）、原田、猪俣、吉田、南（作）、小沢、 酒谷、志藤、谷口、藤坂、佐々木、高西、牧野、渡部、内館、古関、工藤、優 秀選手賞 酒谷外治
昭和 44 年 10 月 1 日	新岩内線着工式を町独自で施行。岩内駅構内に於て盛大に杭打式を挙げる。 参列者 400 名 小中学生の旗行列など盛大な行事であった。
昭和 45 年 7 月 6 日	昭和 45 年度春季駅をきれいにする運動 局長褒賞を受く（村上駅長）
昭和 45 年 6 月 10 日	功労賞（営業増進賞）で表彰さる 運輸掛 原田正雄（賞状及金盃）
昭和 46 年 7 月 28 日	第 2 回安全成績 1000 点到達局長表彰（村上駅長）
昭和 46 年 8 月 28 日	第 9 回運転無事故 1000 点達成局長表彰（村上駅長）
昭和 46 年 10 月 27 日	内館職員（構内歩行中転倒）障害事故発生
昭和 47 年 1 月 1 日	第 11 回営業無事故完成局長表彰（村上駅長）
昭和 47 年 2 月 3 日	第 11 回冬季オリンピック札幌にて開催。参加 35 ヶ国に達し、前例にない盛 会裡に進行し、札幌百万都市の地下街、地下鉄の完成を見形想はこの機会に一 変し、輸送業務も万全を期した。
昭和 47 年 7 月 5 日	駅前広場補装。昭和 47 年 6 月 1 日より着工した補装も約 1 ヶ月にて完成総工 費 1200 万円
昭和 47 年 10 月 14 日	鉄道開通 100 年記念日。各種記念行事が行われた。岩内駅も視聴覚教材スラ イド「わが職場岩内駅」を作成。
昭和 47 年 11 月 1 日	岩内駅開駅 60 周年記念日。 じんあい処理施設 8 月から 3 ヶ月間全職員の努力とアイデアによって完成。 倶知安運輸長臨席のもとに佐々木職員によって落成報告祭、安全祈願祭を行 った。 同日運輸長褒賞（銀楯）授与 同日開駅 60 周年祝賀会挙げる
昭和 47 年 11 月 3 日	岩内線（黒松内～岩内間 45.2K）着工認可を祝って起工式が東小学校で挙げる
昭和 48 年 10 月	北海道新幹線北廻りに決定
昭和 48 年 11 月 14 日	前田駅北海道総局長より感謝状と記念品授与さる
昭和 51 年 3 月 10 日	岩内線営近で要員 2 名減となる
昭和 52 年 1 月 11 日	優良職場として局長表彰授与
昭和 52 年 4 月 15 日	手荷物代用車廃止 トラック輸送に切り替えとなる
昭和 54 年 7 月 29 日	国鉄広報誌「つばめ」かわら版 岩内駅紹介掲載
昭和 55 年 10 月 1 日	岩内～札幌間直通列車 3 往復が廃止となり岩内～小沢折返し運転となる
昭和 55 年 12 月 27 日	国鉄再建法交付施行
昭和 56 年 4 月 10 日	地方交通線 175 線の大正認可

昭和 56 年 8 月 10 日	駅庁舎外装下回りペンキ塗り替え実施
昭和 56 年 9 月 18 日	特定地方交通線 40 線の廃止承認
昭和 57 年 10 月 9 日	特定地方交通線協議会職権開催予定が実施できず
昭和 57 年 10 月 9 日	全国花いっぱいコンクール地区審査において優良賞を受く
昭和 59 年 1 月 31 日	手荷物、貨物取扱い廃止となる。定員 12 名
昭和 60 年 4 月 6 日	第 4 回特定地方交通線協議会 6 月 30 日営業終了 7 月 1 日よりバス